

要 望 書

榎原市長 亀田 忠彦 殿

令和 2 年 6 月 2 5 日
NPO 法人 八木まちづくりネットワーク
理事長 下田 吉美

拝啓

平素は、榎原市におかれましては町づくり活動に多大のご理解ご支援を賜りまして心よりお礼申し上げます。

八木地区は、その歴史は古代に始まり、近世には下ツ道と横大路（伊勢街道）を中心に「おかげ参り」（伊勢参宮の旅団）が行き交うなど宿場町として栄えまた近代には鉄道網が整い都市圏への交通の便のよい商業地として賑わった町です。

旧西村家は、そんな八木地区の中心ともいえる「八木札の辻」の北側の道幅の広まった部分（昔の市の跡）に面した町家建築で、南に榎原市指定文化財の旧旅籠建築「東の平田家（八木札の辻交流館）」、北には白壁の土蔵を模した意匠の八木地区公民館とさらに 2 件の国の登録有形文化財（河合家、河合源七郎家）が並び、このエリアは建物の歴史が地域の歴史・文化と重なり、八木が宿場町、市場町であった往時の賑わい、また祭りや暮らし、地域の記憶や魅力が最も伝わってくる、歴史的な町並みエリアの中心部ともいえる場所に建っています。

旧西村家は昭和中期に会計事務所として現在の姿に一部改修されていますが、母屋や蔵は江戸後期にまで遡る建築ともいわれ、町の景観を構成してきた建築物ですが、今まで一度も榎原市など行政による本格的な調査がされていません。このまま旧西村家が姿を消すと町の記憶と共に町並みを考えるうえで貴重な建築資料が失われます。

この度の西村家土地・建物の寄贈により市所有となった旧西村家について、榎原市として文化的また景観的な調査を行っていただくよう強く要望いたします。

敬具